

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K03460

研究課題名(和文)性暴力被害を受けた学生の「回復」を促す支援マニュアルの作成

研究課題名(英文) Support manual creation to promote the recovery from the student sexual assaults.

研究代表者

河野 美江 (Kono, Yoshie)

島根大学・学術研究院教育研究推進学系・教授

研究者番号：20506472

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：近年、大学生が性暴力被害者となる事件が社会問題になっている。被害学生は望まない妊娠や性感染症のみならず、精神的に強いストレスを受け、その後の生活に大きな支障をきたす。被害学生が安心して支援を求められる体制構築を目的に、全国大学の学生相談機関に対してアンケート調査や支援者へのインタビュー調査を行い、研究論文を執筆、受理された。これらの研究をもとに「大学における性暴力被害学生支援マニュアル」と「大学における性暴力への対応～被害者支援から予防まで～」と題した啓発動画を作成し、オンラインで公開した <https://nosvva.net/forStaff/#material>。

研究成果の学術的意義や社会的意義

欧米においては、大学における性暴力被害対策は危機管理の一環として位置づけられ、性暴力被害者支援に関する研究も多く行われている。我が国においても性暴力被害学生の支援体制構築は喫緊の課題であるが、学生や教職員の性暴力に対する認識が乏しいことが課題である。我々は支援者等に対して行った研究を基に、支援者向けの啓発教材や学生・教職員向けの啓発動画を作成した。本研究で作成した支援マニュアルは、医師やカウンセラー、看護師のみならず、一般の教職員にもわかりやすく書かれている。今後の学生支援の一助となることが大きく期待される。

研究成果の概要(英文)：Sexual assault on campus has emerged as a social issue. Not only do student victims suffer unwanted pregnancies and sexually transmitted diseases, but they also suffer severe mental stress. The purpose of this research is to build a system where student victims can feel safe to seek support.

We conducted a questionnaire survey of student counseling centers at universities interviewed supporters. Based on this research, we created the "Manual for Supporting Student Victims of Sexual Violence at Universities" and a video titled "Responding to Sexual Violence at Universities: From Victim Support to Prevention." <https://nosvva.net/forStaff/#material>.

研究分野：臨床心理学

キーワード：性暴力被害 大学生 回復 支援マニュアル

1. 研究開始当初の背景

近年、我が国において大学生が性暴力被害者となる事件が社会問題になっている。WHO¹⁾によると「同意のない性的な行為はすべて性暴力」と定義され、欧米の大学では人権尊重の観点から性暴力への対応は重要な危機管理の一つと位置付けられ、多くの大学で性暴力被害に対する予防教育や性暴力被害学生への支援をおこなっている^{2,3,4)}。

我々が我が国の10大学3,357人の大学生に実施した調査で、レイプ未遂は7.8%(男子3.1%、女子9.7%)、レイプ被害は2.6%(男子1.6%、女子3.1%)、何らかの性暴力被害経験は42.5%にみられ、性暴力被害経験のある学生は、被害経験のない学生に比べ精神健康度が有意に悪く、性暴力被害はメンタルヘルスに深刻な影響をもたらしていた⁵⁾。また我々が全国507大学の学生相談機関に勤務する教職員(支援者)に対して行った調査において、被害学生に対する相談経験は56.6%にあったものの、性暴力被害を受けた時に必要な緊急避妊ピルや性暴力救援センター知識は不十分で、7割以上の支援者が「学生に対する性暴力被害についての教育不足」、「学内に加害学生がいる場合、加害学生への対応」、「学内外の支援や連携に関するマニュアルの未整備」に困難を感じていた⁶⁾。

我が国においては、2011年に第2次犯罪被害者等基本計画が閣議決定され、「被害者に寄り添い、治療や心のケアなどを多方面から支えるワンストップ支援センター」が現在では各都道府県に一カ所以上設置されている。また、「大学における性暴力への対応」が全国の研修会で取り上げられるようになり、重要な課題と認識され始めている。しかし、学生相談機関において被害学生に対する具体的な支援モデルはない。

そこで我々は、全国大学の学生相談機関の支援者向けに性暴力被害を受けた学生の「回復」を促す支援マニュアルを作成することを目的として、本科学研究費の申請を行った。

2. 研究の目的

研究開始時の以上の研究状況に鑑み、我々は本研究で研究目的を次のように設定した。

(1) 諸外国の大学において、どのような性暴力被害学生の支援が行われているのか、文献調査で明らかにする。

(2) 全国大学の保健管理センターなどの学生支援機関で性暴力被害学生の支援経験がある支援者を対象にインタビュー調査を行い、被害学生への支援過程において必要だったこと、困難だったこと、有効だったことなどを明らかにする。

(3) (2)の結果より被害学生の回復に必要な事項を抽出し、それらの実施の有無や可能性、可能にするために必要な事項について全国の学生相談機関の支援者を対象に、質問紙調査を実施する。

(4) 得られた知見に基づき、全国大学の学生相談機関の支援者向けに性暴力被害を受けた学生の「回復」を促す支援マニュアルを作成する。

3. 研究の方法

上記の研究目的に基づいて、我々は次のような方法で3つの研究を行った。

(1) 米国の大学における性暴力被害学生の支援に関する調査研究について文献レビューを行った。文献検索はPub Medを用い、キーワードを「University or Campus, Sexual assault, Counselling or Support」とした。「University, Sexual assault, Counselling」が242件、「Campus, Sexual assault, Support」が122件、「Campus, Sexual assault, Counselling」が11件検索された。さらにハンドサーチ22件を加えた397文献から重複文献を除き、2010年以

降の原著論文でそのタイトルと要旨から大学における性暴力被害学生の支援に関連した文献 17 件を抽出し、分析の対象とした。

(2) 過去 3 年以内に性暴力被害学生の対応経験が 1 例以上ある学生相談機関の支援者(カウンセラー、医師等) 10 名に、インタビュー調査を行った。インタビューは 2021 年 3 月から 9 月にオンラインで行い、得られた 12 事例を分析対象とした。

分析対象のインタビューデータで、時期別(急性期、中長期) 被害からの回復に有効だったこと、困難だったことを KHcoder version 3. Alpha. 15f を用い、共起ネットワーク分析を行った⁷⁾。本研究は島根大学倫理委員会の承認を得て実施した。

(3)(2) の結果より被害学生の回復に必要な事項を抽出し、それらの実施の有無や可能性、可能にするために必要な事項について、全国の学生相談機関(保健管理センター、学生相談センター、ハラスメント相談センター等)で学生相談に携わる支援者(医師、保健師、看護師、カウンセラー、ケースワーカー、教職員等)を対象に質問紙調査を行った。調査は 2022 年 9 月 28 日より 1 カ月間、全国保健管理協会会員 510 校、全国大学メンタルヘルス学会員 154 名、日本学生相談学会大学カウンセラー会のメーリングリストより、無記名オンラインで実施した。本研究は島根大学倫理委員会の承認を得て実施した。

4 . 研究成果

私たちが行った 3 つの研究において、成果はそれぞれ以下のとおりである。

(1) 米国の性暴力被害学生支援に関する文献的考察

対象 17 文献の研究対象は、女子大学生 2 件、大学生 2 件、性暴力被害を受けた女子大学生 12 件、被害者・医療者・支援者 1 件で、研究デザインは、質的研究 6 件、量的研究 9 件、混合研究 1 件、追跡研究 1 件であった。

学内サポート資源利用と精神的健康状態の関連では、「学内サポート資源が多い大学に通う被害者は、資源の少ない大学に通う被害者より精神的健康が良好」「学内サポート資源が役立つと認識した女性は、役に立たないと認識した女性よりも精神的健康が良い」とする報告や、「学内サポート資源を利用した女子学生は、精神的健康の低下、幸福度の低下、心理的苦痛の大きさに相関する」という報告があった。また、大学に報告された被害は、傷害が伴ったより重い被害が多いとされていた。さらに学生が被害を大学に開示する傾向は、「大学入学前に性暴力被害経験があった」「傍観者介入プログラムを受けていた」「友人や家族から肯定的な反応や励ましを受けた」「大学が性暴力被害に肯定的な認識を持っていた」などと関連するとの報告があった。被害者が利用した学内サポート資源については、メンタルヘルスカウンセリング (60.6%)と大学保健センター (26.5%) が多く、最も役立つ資源は、サバイバーの支援者、ピアカウンセリング、ピアサポートグループとする報告があった。

被害者の 1~27.1%しか正式に大学に報告していないのに対し、45~75.4%が友人やルームメイトなどに話していた。学内サポート資源に求められることとしては、支援者が親しみやすい(被害者を慰めたり、思いやりがある) 機密性の保証(相談内容が人と共有されない) ワンストップである、被害状況の適切な判断と選択肢の提示、的確な学内外サポート資源への紹介などがあげられた。今後必要な支援としては、学生の性暴力に対する知識を高めるために、リーフレットやアクセス可能なオンライン資源、トイレや洗面所に学内外資源のリストを置く、匿名のテキストメッセージやチャットなど相談形式の多様化、メールで定期的に学内外のサービスを送る、傍観者介入プログラムや授業で被害を受けた際の学内サポート資源の利用方法を教えるなどがあった。

以上より、大学で性暴力被害学生を支援するためには、学内被害者支援体制の構築とともに、被害者が大学に被害を開示しやすくするために、傍観者予防プログラムなど予防教育の実施や学内外サポート資源の周知、学内の支援者に対する教育、機密性についてコンプライアンスの遵守が重要であると考えられた。

(2) 性暴力被害を受けた学生の「回復」を促す支援について

分析により、時期別には、急性期の支援で【被害および被害学生の見立てと急性期症状への対応】【ワンストップセンターへのつなぎを検討】【被害学生のための学内支援体制の確立】【ハラスメント調査のサポート】【多数の関係者との連絡調整】【被害学生と被害親の怒り、苦しみ】【教務・学生課による事情聴取】、中長期の支援で【被害学生の修学困難に対する修学支援の継続】【長期的な反応を見越した被害学生支援】【大学の加害者対応と連動した被害学生支援】【ハラスメント調査との分業】のカテゴリが生成された。これらより、支援者は「性感染症や妊娠のリスクへの対応」の知識を持ち、必要な場合には医療機関やワンストップセンターに紹介すること、場合によっては加害者対応を別の担当者に依頼するなどチームで担当する必要があることが明らかになった。また中長期支援においては、被害学生の心理教育や修学支援等が必要で、ハラスメント対応等の部署の場合は継続支援が可能な部署に紹介することが望ましいこと、学内のハラスメント対応はできるだけ速やかに行うとともに長引く場合は加害者の状況を被害者に説明し、ハラスメントとカウンセリングを分けて支援することが重要であることがわかった。

被害からの回復に有効だったこととして【被害学生の心理を理解した教員の対応】【被害学生対応と加害者対応がスムーズに進む】【支援者全員で対応できる環境】【適切な支援者への紹介と連携】【支援者のアウトリーチを含む支援】【教務・学生課による支援】のカテゴリが生成された。支援者が部署内の他の支援者と話し合いや役割分担ができる良好な関係にあること、学内の教職員が被害学生を理解し支援すること、支援者が学内外の相談機関やワンストップ支援センター等の情報を被害者に提示し被害者自らが支援を選べること、が支援者にとって支援を行う上で有効であった。

以上より、被害学生への二次的被害を防ぎ、支援を円滑に行うためには、全教職員に対し性暴力被害に関するSD/FD研修や、関係する教職員に性暴力被害に関する心理教育を行い、被害者の心理と回復に関する理解を深められるようサポートすることが重要である。本研究で得られた具体的な支援者の仕事と、回復のために重要なポイントをまとめ、効果的な支援者教育および支援者用マニュアルの整備の必要性が示唆された。

(3) 大学における性暴力被害学生に対する支援に関する研究

返信のあった300名中、回答に同意した286名を分析対象とした(有効回答率98.3%)。大学の学生支援機関における性暴力被害学生の相談経験は41.3%にあり、「こころのケア」は学生相談部門でカウンセラーが、「妊娠や性感染症への対応」は保健管理部門で保健師・看護師が、「修学上の配慮」はハラスメント相談部門が、というようにそれぞれの学生支援機関が別々の支援を行っており、支援者も所属部署により自身の役割を決定していることが明らかになった。「こころのケア」は93%で行われ、支持的面接、現在の学業や生活状況の確認、被害状況の確認、精神面のアセスメントが多かった。「学内連携」は61%で行われ、学生相談部門のほかに、学部や厚生補導部署との連携が多かった。また49.1%の支援者に、加害者が学内者である被害者から相談された経験があり、被害者支援とハラスメント対応、加害者対応などに困難を感じていた。

以上より、学生支援機関の支援者において性暴力被害者支援に必要な支援スキルの向上、学内外機関との協力連携を図るとともに、大学としてハラスメント相談体制整備と学内教職員に対する性暴力被害に関する研修を行う必要性が示唆された。今後、大学における教職員の性暴力に

対する理解を深めるために、性暴力被害学生に対する支援マニュアルの作成が急務と考えられた。

(4) 大学における性暴力被害学生支援マニュアル

以上の結果を全国大学メンタルヘルス学会、日本学生相談学会等で発表した。また、「大学における性暴力被害学生支援マニュアル」や大学生や大学教員に向けた予防啓発動画「大学における性暴力への対応～被害者支援から予防まで～」を作成し、前回の科学研究費補助金(16K01759)で作成した「大学生のための性暴力救援サイト」<https://nosvva.net/>に掲載した。

引用文献

- 1) WHO. Guidelines for medico-legal care for victims of sexual violence, 2003.
<https://iris.who.int/bitstream/handle/10665/42788/924154628X.pdf>
- 2) Casey EA, Lindhorst TP. Toward A Multi-Level, Ecological Approach To The Primary Prevention Of Sexual Assault: Prevention In Peer And Community Contexts. Trauma Violence Abuse, 10, 91-114, 2009.
- 3) Vladutiu CJ, Martin SL, Macy RJ. College- or University-Based Sexual Assault Prevention Programs: A Review of Program Outcomes, Characteristics, and Recommendations. Trauma Violence Abuse, 12(2), 67-86, 2011.
- 4) Banyard VL, Moynihan MM, Crossman MT. Reducing Sexual Violence on Campus: The Role of Student Leaders as Empowered Bystanders. Journal of College Student Development, 50 (4), 446-457, 2009.
- 5) 日本の大学生における性暴力被害経験と精神健康度 . 河野美江、執行三佳、武田美輪子、折橋洋介、大草亘孝、川島渉、布施泰子 . 大学のメンタルヘルス 2. 82-89 , 2018
- 6) 大学における性暴力被害学生への支援 : 学生支援部門の教職員対象のアンケート調査より . 河野美江、執行三佳、武田美輪子、岡本百合、折橋洋介、大草亘孝、川島渉、布施泰子、清水幸登 . 大学のメンタルヘルス 3. 107-115, 2019
- 7) 樋口耕一 KH Coder: 計量テキスト分析・テキストマイニングのためのフリーソフトウェア .
<https://kncoder.net/>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 河野美江	4. 巻 643
2. 論文標題 性暴力被害を受けた学生への支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IDE現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 29-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fuse Nagase Yasuko, Marutani Toshiyuki, Watanabe Kei ichiro, Kono Yoshie, Yamazaki Megumi, Honda Zen ichiro	4. 巻 2
2. 論文標題 Negative life events are associated with risk of mental illness among Japanese university students	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/pcn5.78	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 河野美江、執行三佳	4. 巻 40
2. 論文標題 性暴力被害を受けた学生の回復を促す支援について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本学生相談学会第40回大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 85-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野美江、執行三佳	4. 巻 44
2. 論文標題 性暴力被害を受けた学生の「回復」を促す支援について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学生相談研究	6. 最初と最後の頁 12 - 21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河野美江、執行三佳	4. 巻 1
2. 論文標題 米国の性暴力被害学生支援に関する文献的考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本学生相談学会第39回大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 91-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野美江	4. 巻 -
2. 論文標題 海外からの留学生が性暴力被害にあったとき	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Students (海外からの留学生)への健康管理の手引き	6. 最初と最後の頁 32, 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河野 美江、猪口かおり、執行 三佳、大草 亘孝、布施 泰子、折橋 洋介、岡本 百合、清水 幸登	4. 巻 7
2. 論文標題 大学における性暴力被害学生への支援に関する研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大学のメンタルヘルス	6. 最初と最後の頁 57-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件(うち招待講演 2件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 河野美江、執行三佳
2. 発表標題 性暴力被害を受けた学生の回復を促す支援について
3. 学会等名 日本学生相談学会第40回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河野美江
2. 発表標題 大学における性暴力への対応～予防から被害者支援まで～
3. 学会等名 第52回九州地区保健管理協議会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河野美江、猪口かおり、執行三佳、大草亘孝、布施泰子、折橋洋介、岡本百合、清水幸登
2. 発表標題 性暴力被害を受けた学生の学内支援に関するアンケート調査報告
3. 学会等名 第44回全国大学メンタルヘルス学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河野美江、執行三佳
2. 発表標題 米国の性暴力被害学生支援に関する文献的考察
3. 学会等名 日本学生相談学会第39回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渥美 治世、河野 美江、宮地 勇人、他11名
2. 発表標題 東海大学における性暴力予防教育の取り組み
3. 学会等名 第43回全国大学メンタルヘルス学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河野美江、執行三佳
2. 発表標題 性暴力被害を受けた学生の回復を促す支援について
3. 学会等名 日本学生相談学会第40回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河野美江、執行三佳
2. 発表標題 性暴力被害を受けた学生に相談室は何ができるか
3. 学会等名 第54回全国大学学生相談研究会議
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河野美江
2. 発表標題 性暴力被害を受けた学生への支援
3. 学会等名 第59回日本学生相談研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河野 美江、猪口かおり、執行 三佳、大草 亘孝、布施 泰子、折橋 洋介、岡本 百合、清水 幸登
2. 発表標題 「大学における性暴力被害者支援体制の構築研究班」活動報告
3. 学会等名 第45回全国大学メンタルヘルス学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渥美治世、小貫大輔、河野美江、柿添英文、土井美果、山本義郎、浅井さとみ
2. 発表標題 東海大学における性暴力予防教育の取り組み
3. 学会等名 第42回日本思春期学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 全国学生相談研究会議、杉原保史	4. 発行年 2022年
2. 出版社 遠見書房	5. 総ページ数 181
3. 書名 学生相談カウンセラーと考えるキャンパスの危機管理	

1. 著者名 種部恭子編、河野美江	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新興医学出版社	5. 総ページ数 22
3. 書名 性暴力救援マニュアル	

1. 著者名 河野美江、加藤治子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本産婦人科学会事務局	5. 総ページ数 2
3. 書名 産婦人科専門医のための必修知識2020年度版	

1. 著者名 河野美江、執行三佳、猪口かおり、大草亘孝、布施泰子、折橋洋介、岡本百合、清水幸登	4. 発行年 2024年
2. 出版社 高浜印刷	5. 総ページ数 18
3. 書名 大学における性暴力被害者支援マニュアル	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1) 河野美江：若年層の性暴力被害予防の取り組みについて：令和4年度内閣府 若年層を対象とした女性に対する暴力の予防啓発のためのオンライン研修講師，2022</p> <p>2) 河野美江：子ども・若年層の性被害について：内閣府、こども家庭庁の会議出席，2023.7.4</p> <p>3) 河野美江：子どもの性教育について新聞に執筆，おやこ性教育，山陰中央新報，2020～2021</p> <p>4) 河野美江：子どもの性暴力についての取材、新聞掲載：子どもへの性暴力：朝日新聞全国版，2023.3.27</p> <p>5) 河野美江：大学生の性暴力被害についての取材、テレビ放映：ストップ・ザ性暴力：NHK 松江放送局ニュース，2023.4.18</p> <p>6) ホームページ 大学生のための性暴力救済サイト https://nosvva.net/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	武田 美輪子 (TAKEDA Miwako) (70750644)	島根大学・地域包括ケア教育研究センター・特例研究員 (15201)	2020-2022.6.16
研究分担者	執行 三佳 (SHIGYO Mika) (90790379)	島根大学・保健管理センター・カウンセラー (15201)	
研究分担者	猪口 かおり (INOKUCHI Kaori) (30967063)	島根大学・学術研究院教育研究推進学系・特任講師 (15201)	2022.6.16-

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岡本 百合 (OKAMOTO Yuri)	広島大学・保健管理センター・教授	
研究協力者	折橋 洋介 (ORIHASHI Yosuke)	広島大学・法学部・教授	
研究協力者	大草 亘考 (OOKUSA Nobutaka)	大阪歯科大学・歯学部・准教授	
研究協力者	布施 泰子 (FUSE Yasuko)	茨城大学・保健管理センター・教授	
研究協力者	清水 幸登 (SHIMIZU Yukito)	関西学院大学・保健館・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関